

ユン・ミヒャン代表がニューヨークから送る

挺対協週刊ニュース 2015-7号

3月2日(月)ー 8日(日)

報告: 挺対協常任代表ユン・ミヒャン

翻訳: 永塚賀津子

3.8 世界女性デーを迎え、全国各地、そして世界中で女性の声が高まっています。女性労働者の生活の場、女性農民の生活の場、女性障がい者の生活の場をもう一度顧みる機会になっています。韓国の女性は依然として社会進出に多くの制約があること、賃金も男性と差別されているという話などをニュースで見ながら、娘であれ、息子であれ、同等に能力で評価され、待遇される世の中が来ることを祈りました。その中でも日本軍「慰安婦」ハルモニの人生をもう一度振り返る番組がいくつかの局で放映され、癒される一週間でした。本当にありがとうございます。

私は今、ニューヨークから週刊ニュースを送っています。ニューヨークの国連で12日、韓国政府女性家族部が主催する日本軍「慰安婦」問題のサイドイベントがあります。ここでも世界各地の女性が集まり、様々な側面から女性の現状を点検し、討論する場が開かれています。この討論の場から少し時間を割いて、私たちの運動を担って下さっている皆さんのことを考えながら週刊ニュースを送っています。感謝の気持ちを忘れず、より一層一生懸命活動しようと努力していますが、一週間過ぎてみるといつも心残りで、不満足感も残ります。これからの一週間はこの不満足感が満たされるように活動しようと思います。2015年の週刊ニュースも、もう7回目になりましたね。

常任代表ユン・ミヒャン拝

3月2日(月曜日)

1、挺対協が運営するハルモニのシェルター[平和のウリチプ]は麻浦(マポ)区延南(ヨンナム)洞にあります。今日、ウリチプに麻浦警察署所属のユン・チギョン情報官がおいしい餡パンをお土産に新年のあいさつにきました。ウリチプで困っていることはないか、ハルモニの健康状態はどうかなどいろいろな話をし、帰る時に困ったことがあったらいつでも電話してくれと言いました。

3月3日(火曜日)

1、ウェンディ・シャーマン米国務次官の発言、「過去の敵を非難することで国民の民族主義感情を煽り安直な拍手を受けている」徹底した自国の利益を中心に歴史を利用し、処理しようとする国家間に私たちが存在しているということを学びます。これによって、今後、挺対協活動をどんな方向へ向けて行かなければならないかについても学ばされます。今日、米国のウェンディ・シャーマン米国務次官が、日中韓の歴史問題に関連して「民族主義感情が相変らず利用されているし、どの政治指導者も過去の敵を非難することによって国民の安直な拍手を受けることは難しくない。しかし、そのような挑発は、進展ではなく感覚のマヒを招く」という要旨の講演をしたことが報道さ

れました。彼女が米国の東北アジア問題に実質的に責任を負う立場にあるという点で、この発言は黙過できないものでした。被害者中心の歴史認識、問題の解決方法ではなく、加害者中心の立場から出てきたこうした発言に対して、これまで韓国社会や韓国政府の外交が周辺関係国に影響を与えられなかったということではないかという思いがし、と同時に挺対協の対米活動においてももっと積極的な努力が必要だと思いました。一方で、この発言に対する対応では、中国政府が強力に糾弾しているのに反し、韓国政府の場合、米国政府の公式立場には変化がないと、こうした発言が出てくるようになった背景と米国の立場に対して確認、追求、抗議するよりも、韓国社会に否定的な声が広まらないよう收拾するのに汲々とした姿を見せました。この発言に対しイ・ミギョン議員室から、強く糾弾する声明が発表されました。

3月4日(水曜日)

1、もう何年目になるでしょうか？長い間全国女性農民会「お姉さんちの畑」はハルモニのためにウリチプへ農産物を送ってくれています。テポルム(旧正月 15日)にあわせウリチプへ「お姉さんちの畑」で作られた豆腐、卵、サツマイモの茎、里芋の茎、ワラビ、大根の葉と茎、ホウレンソウ、白菜など、ナムル(和えもの)の材料を送ってくれました。

2、ユン・ミヒャン常任代表のお舅さんが亡くなり、事務所から挺対協関係者に訃報を出しました。

3、今日も水曜日～水曜日がこんなに早く来るところを見ると、一週間がとても早いなあと思います。急に気温が零下に下がった花冷えの中でも、キム・ボクトン、キル・ウォノク、イ・ヨンスハルモニを始めとした多くの方が参加される中、第1168回日本軍「慰安婦」問題解決のための定期水曜デモが平和路で開かれました。今回の水曜デモは「新政治女性推進委員会」、「新しい響きソウル」、「労働政治連帯フォーラム」の共同主管で行われました。3.8世界女性デーを迎え、ハルモニにバラの花とお餅のケーキを贈り、中央伝統舞踊団から韓国舞踊<イプチュム>の公演が披露されました。平和ナビ、梨花ナビ、劇団コレ(くじら)、社会的企業「マリモンド」、韓国芸術総合学校、オリベナト聖ベネディクト修道会、新政治民主連合が参加してくれました。参加者は寒い中、「ウエンディ・シャーマン次官は歴史に対する妄言を即刻謝罪しろ」とスローガンを叫び、熱い平和の喊声が続きました。



お舅さんの喪で参加できなかったユン・ミハン代表の席をキム・ソンシル代表が埋めてくれて心強かったです。キム・ソンシル共同代表は経過報告で「ウェンディ・シャーマン米 국무次官の発言に対して糾弾するとともに日本に続いて米国まで歴史に対する妄言に明け暮れる態度に悔しさがこみ上げます。23年間の水曜デモは、この場を守ってきたハルモニ、活動家、韓国国民、世界の市民が共に作ってきたからこそ可能であったし、皆さんも日本軍『慰安婦』問題解決への関心を一瞬も緩めることなく、目を離さずしっかりと見守り、厳しく闘って行きましょう」と、参加者に訴えました。イ・ヨンスハルモニが椅子に座ったままマイクを握り、「皆さん、私たちの子孫のために戦争のない国になるよう、私たちが最後まで闘い、勝ちましょう」と連帯発言をしました。



今回水曜デモの主管団体である「新政治女性推進委員会」、「新しい響きソウル」、「労働政治連帯フォーラム」は声明書で「韓国政府の沈黙と傍観の中に、日本政府の歪曲と無差別的な攻撃の

中に、日本軍『慰安婦』被害者ハルモニの時間が空しく過ぎ去っている。しかし新しい政治と堂々たる歴史を願うここに集まった私たちは決してそのようにはさせない。私たちは光復 70 周年、そして世界女性デー107 周年を迎え、歴史の誤りを正し、女性の人権と平和を守るために共に連帯し、努力することを改めて決意する。ハルモニの顔に明るい笑顔がよみがえり、女性の人権と平等が実現され、韓国民族の堂々たる歴史を作っていくその日までさらに力強く前進しよう」と述べ、決意を固めました。

平和ナビ西江(ソガン)大学のパク・ウネさんの発言、梨花ナビの学生の発言、劇団コレの俳優イ・デヒさんの発言が続き、連帯活動を決意する発言でハルモニと参加者を力づけてくれました。最後に 3.8 世界女性デーに合わせて準備した赤いバラを参加した女性に渡し、締めくくりました。

4、海南(ヘナム)ナビがコン・ジョミョプハルモニの消息を送ってくれました。ソウルで水曜デモが開かれている毎週水曜日、海南ナビの会員はコン・ジョミョプハルモニを訪問します。先週はユン・ミヒャン代表がソン・ヨンミウリチプ所長、リュウ・ジヒョン幹事が木浦(モッポ)中央病院に入院しているコン・ジョミョプハルモニを訪ね、消息を伝えましたが、**早ければハルモニが今週土曜日頃退院し、海南の家へ来られるそうです。**ハルモニの家には動くことが大変になったハルモニのためにベッドなどを準備しておいたそうです。ハルモニ、起き上がり小法師のように再びお元気になって下さってありがとうございます。

3月5日(木曜日)

1、今日がテボルム(旧正月15日)。都市生活では夜空の月や星を見て暮らすことがどうしてそんなに難しいのか・・・ひたすら狭い空間の中でテレビを通して私たちの暮らす世の中、そして外の世界を見ることが多いようです。ハルモニは陰暦の日を正確に数えています。おかげで私たちもハルモニの記憶に慣れて暮らしています。**テボルムだということで、[平和のウリチプ]ではナムルとおこわ、胡桃と落花生を準備しました。ハルモニはおいしく召し上がって幸せそうでした。**ハルモニがおいしく召し上がれることが健康の源であり、私たちには喜びです。



2、ウリチプではハルモニと共にする美術治療教室が開かれました。シン・ヘウオン先生がキル・ウオノクハルモニと一緒に粘土で饅頭を作りました。ハルモニは饅頭の外皮を作り、先生はいろいろな塗料を被せて中身を作り、ハルモニに渡すとハルモニは中に埋めて饅頭を作りました。饅頭が好きですが、普段は、糖尿でたくさん楽しんで食べられないハルモニは作るだけでもとてもうれしそうでした。



3月6日(金曜日)

1、日本軍「慰安婦」ハルモニと共に歩む釜山(プサン)市民の会があります。長い間釜山地域に住んでいるハルモニを訪ね、話し相手になったり、ハルモニが生活上困っていることを助けたりしながら挺対協とも連携しています。釜山市民の会は釜山に暮らしているイ・マクタルハルモニ、慶南(キョンナム)梁山(ヤンサン)のチェ・オギハルモニを訪問し、その消息を知らせてくれました。

イ・マクタルハルモニは膝に痛み止めの注射をしたら楽になったそうです。以前から打とうといいながら骨に良くないと聞き、注射をしなかったのですが、6ヶ月後にまた痛くなったら打つそうです。挺対協から贈った花桃色のジャケットが気に入ったのか、いつも着ています。



チェ・オギハルモニは今日は特別元気そうです。久しぶりに顔も見分けられてパッと起き上がり、息子のご飯を準備しなければと、普段は這って行くところを歩いて部屋を出て、台所へ行きました。

2、希望ナビが浦項(ポハン)と蔚山(ウルサン)にいる二人のハルモニを訪問しました。昨年から定期的に訪問してきました。先ず、浦項に住んでいるパク・ピルクンハルモニを訪ねました。ハルモニはナビをわざわざ迎えに出て本当にうれしそうにされました。風邪で具合が悪いと聞いていましたが、風邪はずいぶん良くなったようでした。しかしハルモニは毎日腕にシップを貼っているので皮膚がただれてとても心配になりました。それでもハルモニはもって行ったシップや清心丸、紅蔘を喜ばれたのでうれしかったです。そして春の服についても話していましたが、今度は一緒に市場へ行って服を買ったら良いだろうと思いました。ハルモニの部屋であれこれと話し、ハルモニからおこしやユガ(菓子)、ヨツ(飴)、みかん、トマトジュースなどをもらって食べました。「私もあなたたちぐらいのときには飛び回っていたよ～～」と言って若い頃の話をしてくれましたが、少し心がじんとしました。そしてハルモニは、こうして訪ねてくるナビに何度もありがとうございますと言いますが、ハルモニに恥ずかしくないようにもっと一生懸命活動しなければと思いました。



希望ナビが次に訪ねたハルモニは蔚山にいるキム・オッキハルモニです。ハルモニは 89 歳のお歳の割にしゃんとした姿で、喜んで迎えてくれて本当にうれしかったです。プレゼントの中で紅蔘が好きだと言い、喜んで飲んでいてと言いました。飲んで長生きしなければと言います。希望ナビにも紅蔘を一つずつ出してくれるので懸命に辞退しましたが、一つずつ…いただきました。

3、**挺対協キム・ソンシル共同代表を始めとしてチョン・テヒョ、チョ・ユニ実行理事と事務所のスタッフ、そして挺対協の常勤活動は退いたけれどボランティアとして引き続き参加しているイム・ジョン、チョン・ウンジョンさんと共にユン・ミヒャン常任代表のお舅さんのお葬式に弔問し、ユン・ミヒャン代表を慰めて来ました。**

4、**葬祭場で会議をする挺対協^:ユン・ミヒャン代表が席を空けて二日、あれこれと話し合い、決定しなければならないことが多かったので、キム・ドンヒ事務所長とアン・ソンミチーム長、ヤン・ノジャチーム長と一緒にユン・ミヒャン代表と片隅に席を設けて座り、アジア連帯会議、ベトナムナビ基金支援、被害者調査訪問、済州(チェジュ)平和ナビの活動など、急いで相談し、進めていかなければならないことについて話し合いました。**

3月7日(土曜日)

1、**今日、戦争と女性の人権博物館には 400 名余りのランナーが訪問しました。ハルモニの押し花をデザイン開発し、商品化して販売し、その収益金から日本軍「慰安婦」問題解決のために後援し、活動している社会的企業「マリモンド」と「プリントラップ」は3.8女性デーを記念して競技大会を行いました。上岩(サンアム)ワールドカップ競技場を出発し、「戦争と女性の人権博物館」を折り返し地点にして戻るコースです。すべての参加者が関心を持って博物館を見学し、息を切らしながらも1億人署名運動にも協力し、ナビの掲示板にもメッセージを残して戻って行きました。競走しているのではなく一緒に走りながら意味のある所を折り返し地点にして見学をし、その意味を心に刻みつけて戻って行く参加者を通してまた一つの希望に出会いました。ありがとうございます。**



2、希望ナビは暖かい日差しの下、3月7日1時、清州(チョンジュ)の忠北(チュンブク)大学の中門で署名運動をしました。新学期が始まって初めて行った署名運動であり、久しぶりのことでできどきわくわくしながら始めました。



始まったばかりの時、多くの人が関心を持っていないように見え、私たちに何が足りないのか悩みました。「日本軍『慰安婦』問題を解決するために署名して下さい」だけでなく、「記憶しない歴史は繰り返される」「良心のある大学生になろう」と話すと学生は関心を持ってきて近づいてきました。

新入生は、どんなグループなのか、どんな活動なのか具体的に質問もし、あるおじさんはご苦労さんと言って飲料水を買ってくれたりもしました。私たちの1行の署名がハルモニに大きな力になってうれしいです。これからもがんばって一生懸命取り組みます。

3、中央大学(日本)の学生が博物館を見学しました。見学が終わってから希望ナビと交流会し、日本軍「慰安婦」問題について互いの考えや共にできることについて対話をしました。

4、日本からキム・ブジャ先生を始めとして研究者が戦争と女性の人権博物館を見学し、ヤン・ノジャチーム長と懇談会を持ちました。